

## 古事記 試訳 (2)

つづいて現れた神は名をクニトコタチの神かみと言ひ、その次はトヨクモの神。

この二柱の神はまた独り神で、高天原たかあまのはらに身を隠した。

次に現れた神は、ウヒジニの神。その次は、その連れ合いでスヒジニの神。

次はツノクイの神。次がその連れ合いのイクグヒの神。

ついでオオトノヂの神。つぎがその連れ合いのオオトノベの神。

次がオモダルノ神。そしてその連れ合いのアヤカシコネノ神。

そしてイザナギノ神とその連れ合いのイザナミノ神である。

(最初の二柱は独り神なので、ひとりびとりで一代ひとよ。次からの二人組は、二柱合わせて一代と数える。)(イザナギとイザナミのカップルが生まれるまでに、何組かのカップルが現れては消える。)

さて、イザナギとイザナミのお二方が現れたとき、天あまつ国にいる神々は、このお二方に、あのまるでくらがが集まって浮脂のように漂っている土地を、きれいに調べて国を作りなさい、とお命じになり、天の沼矛を渡されたのだった。

そこでお二人の神は、天と地をつなぐ天の浮橋に立って、天の沼矛をこのどろりどろりとした地へ指し下ろし、こおろこおろとおごそかに踊り歌いつつ国の形を作り出そうとしたのだった。

天の沼矛を引き上げると、矛の先から(絵筆の先の絵具のように)塩が滴り落ちて固まり、島の形が整った。

これがオノゴロ島である。

お二人は、その島へ降りて行き、そこに立っている木材を天の御柱に見立てて並べ、

柱で囲んだ広いところを八尋の御殿に見立てたあと、イザナギはイザナミにこう言った。

「そなたの身体はどんなふうな出来具合だね」

「私はこうして一柱ひとしちの神に成りましたが、ちよつと一箇所足りないところがあります」

「そうかい。おいらもこうして一柱の神になったけれどどうも出張っているところがある。では、どうだろう、この出張っているところをそなたの足りないところへ差し入れ合わせてみれば。そうすれば、国が生まれるかもしれない。どうだい、国を生んでみようかい」